

愛知・大毛沖遺跡

おおけおき



(岐阜・名古屋北部)

大毛沖遺跡は、一宮市域の北東部、木曽川左岸に形成された自然堤防及びその後背湿地に立地する。東海北陸自動車道建設の事前調査として、一九九三年から一九九五年にかけて調査を実施した。

- 1 所在地 愛知県一宮市大字大毛
- 2 調査期間 一 一九九三年(平5)七月～一月
二 一九九四年一二月～一九九五年一月
- 3 発掘機関 (財)愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 一 永井宏幸・小池一徳・栗林典昭
二 永井宏幸・小池一徳・牧謙治
- 5 遺跡の種類 一 集落跡、二 河川跡
- 6 遺跡の年代 古代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

住域Iとされる中世集落の一端に位置する。SXO-1は一二世紀前半の大型の廃棄土坑で、卒塔婆が一点、その他に梅檀の種子、山茶楓、伊勢型鍋、白磁、青磁が出土している。また、体部外面に判読不能の墨書がみられる山茶楓一点、「まゞ」と底部外面に書かれた小皿一点が出土している。

九四G区(SXO-1)は、遺跡の中央を北東から南西にかけて縦断する、古代から中世の河川に合流する溝である。SXO-1は上位層に拳大の河原石を敷き詰めてあり、ここのから九世紀後半頃の呪符木簡が一点と灰釉陶器片が出土した。

8 木簡の釈文・内容

一 九三A区

(1) 「南无大口」

(108)×35×3 061

上部の形状は主頭で、その下に切り込みが二条入る。下部を欠損しているため、墨書の全容は明らかではないが、形状と表記内容から卒塔婆とみられる。

二 九四G区

(1) 「(符籙)」

上部が一部欠損しているものの、ほぼ完形品。記載内容は不明で

320×20×7 011

あるが、符籙の記載から呪符木簡の断片と考えられる。

9 関係文献

(財)愛知県埋蔵文化財センター『大毛沖遺跡』(愛知県埋蔵文化財セ
ンター調査報告書六六、一九九六年)

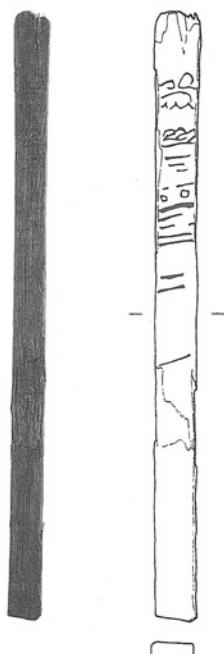
(永井宏幸)

(一)



—(1)

二(1)



二(1)

木簡研究 第二四号

卷頭言—情報化と松と檜—

二〇〇一年出土の木簡

東野治之

概要 平城京東市跡推定地 藥師寺旧境内 旧大乘院庭園 東大寺

藤原宮跡 藤原京跡左京一条二坊

藤原京跡左京六条二坊・七条二坊

石神遺跡 飛鳥池遺跡 長岡京跡

平安京跡右京六条三坊七・八・九・

十町 佐山遺跡(B2地区) 大坂城跡

東心斎橋一丁目所在遺跡

広島藩大坂藏屋敷跡 鬼虎川遺跡 上津島遺跡 上町東遺跡

六条遺跡 明石城武家屋敷跡 溝の口遺跡 赤穗城跡二の丸 志賀公園遺跡

下懸遺跡 仁田館遺跡 史跡建長寺境内 宮町遺跡 柳遺跡 八角堂

遺跡 柿田遺跡 八幡遺跡群社宮司遺跡 荒田目条里制遺構 砂畠遺

跡 泉廐寺跡(陸奥国行方郡衙) 中野高柳遺跡 市川橋遺跡 仙人

西遺跡 十二社B遺跡 觀音寺廐寺跡 本荘城跡 北遺跡 盤岩台遺

跡 高間(六)遺跡 福井城跡 畠田・寺中遺跡 北中条遺跡 指江

B遺跡 四柳白山下遺跡 寺地遺跡 岩倉遺跡 六日町余川地内試掘

調査地點 北小脇遺跡 浦廻遺跡 船戸桜田遺跡 船戸川崎遺跡 出

雲國府跡 川入・中撫川遺跡 安芸国分寺跡 南前川町一丁目遺跡

南斎院土居北遺跡 高知城伝下屋敷遺跡 中原遺跡 京田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(二四) 平城宮跡

积文の訂正と追加(五)

都城出土漆紙文書の来歴

飯塚遺跡(二二号)

古尾谷知浩

但馬特別研究集会の記録

日高町の古代遺跡と出土木簡: 加賀見省一、出石町の古代遺跡と木簡

: 小寺誠、袴狹遺跡出土木簡と但馬国・豊岡盆地の条里: 山本崇、九世

紀の国郡支配と但馬国木簡: 吉川真司、文書と題籤軸(報告要旨):

杉本一樹、討論のまとめ: 館野和己・今津勝紀

頒価 五〇〇〇円 送料六〇〇円

2003年出土の木簡

彙報